

まち・ひと・しごと創生

水俣市人口ビジョン



令和7年3月

水俣市

# 目 次

第1章 水俣市人口ビジョンについて	
1 はじめに	1
2 水俣市人口ビジョンの位置づけ	1
3 水俣市人口ビジョンの対象期間	1
第2章 水俣市の人口に関する現状分析	
1 総人口	2
（1）水俣市の総人口の推移	2
（2）年齢区分別人口の推移	4
2 自然増減及び社会増減	6
（1）人口の増減要因	6
（2）自然増減の動向	8
（3）社会増減の動向	10
3 就労の状況	14
（1）産業別就業者数	14
（2）年齢階級別産業人口割合	16
第3章 人口の将来展望	
1 社人研推計	17
2 人口減少段階の把握	18
3 人口の減少が地域の将来に与える影響についての考察	19
（1）産業への影響	19
（2）市民生活・地域社会への影響	19
（3）行政運営への影響	19
第4章 水俣市が目指す方向性	
1 目指すべき方向性と基本目標の設定	20
2 まち・ひと・しごと創生実現に向けた仮定	20
（1）事実認識	20
（2）将来展望のための仮定	20
水俣市の人口見通し 長期目標	22
参考資料	23

# 第1章 水俣市人口ビジョンについて

## 1 はじめに

国では、平成26(2014)年に「まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)」を制定し、『まち・ひと・しごと創生長期ビジョン』及び『まち・ひと・しごと創生総合戦略』を定めて、将来における日本の国力を維持するために、東京一極集中の是正、活力ある地域社会の創造、国民の結婚・子育ての夢の実現などを柱とする「地方創生」に国を挙げて取り組んできた。

令和4(2022)年には、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、デジタルの力を活用しつつ、地域の個性を生かしながら地方の社会課題解決や魅力向上の取組を加速化・深化するため、これまでの『まち・ひと・しごと創生総合戦略』を抜本的に改訂し、『デジタル田園都市国家構想総合戦略』を策定している。

本市においても、平成27(2015)年10月に、平成27(2015)年度から平成31(2019)年度までの5年間を対象期間とする『第1期水俣市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定、令和2(2020)年3月に、令和2(2020)年度から令和6(2024)年度までの5年間を対象期間とする『第2期水俣市まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定している。

この度、『第2期水俣市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の対象期間の終了に伴い、デジタルの力も活用しながら、本市の社会課題解決、魅力向上にむけた地方創生の取組を推進するため、令和7(2025)年度から令和10(2028)年度までの4年間を対象期間とする『デジタル田園都市国家構想の実現に向けた第3期水俣市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「第3期総合戦略」という。)]を策定するにあたり、「水俣市人口ビジョン」を改訂した。

## 2 水俣市人口ビジョンの位置づけ

「水俣市人口ビジョン」は、本市における人口の現状及び将来にわたる分析と推計を行い、人口問題に関する市民との認識の共有を目指すとともに、今後目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を示すものであり、その上で、『第3期総合戦略』の基礎として位置づけるものである。

## 3 水俣市人口ビジョンの対象期間

「水俣市人口ビジョン」の対象期間は、改定前と同様、2060年までとする。  
なお、人口ビジョン策定にあたっては、国の長期ビジョンとの整合性について勘案する必要があり、本市においても、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」における検討を踏まえ、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)等の統計手法による推計を参考として検討を行うこととする。

## 第2章 水俣市の人口に関する現状分析

### 1 総人口

#### (1) 水俣市の総人口の推移

国勢調査が開始された1920年(22,494人)以降の本市の人口は、進出企業の急速な拡大・発展に伴って、太平洋戦争直前の一時期を除き一貫して急激な増加を続けてきた。

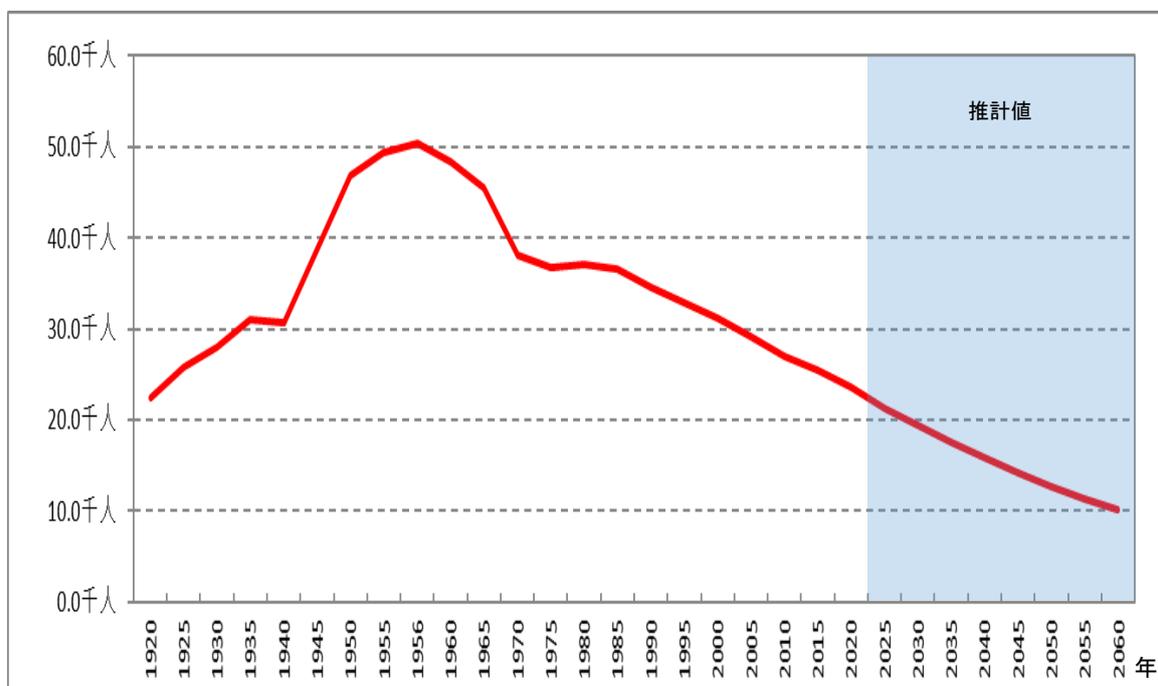
戦後、引揚者の流入や、産業の急速な復興による労働者の流入、第1次ベビーブームによる出生数の拡大によって、旧久木野村と合併した1956年前後には人口5万人を超え、ピークを迎えた。

高度成長期を迎えると、景気の停滞や、地域の主要産業の動向に即して、大幅な社会減<sup>①</sup>が続き、本市の人口は急速に減少に転じた。

1970年代から80年代にかけては、人口3万6千人前後で一時的に横ばいの状態となったが、平成を迎える頃から、出生数の減少により自然減<sup>②</sup>に転じたこと、加えて、社会減も拡大したことから、再び減少に転じた。

1989年以降の人口の推移を見ると、2023年までの35年間で約1.4万人、平均して毎年約400人程度減少しており、2023年12月31日現在の総人口は、22,133人と、ピーク時の半分以下の水準となっており、今後も総人口は減少していくことが推測される。

#### ◆水俣市の人口の推移(1920年～2060年)

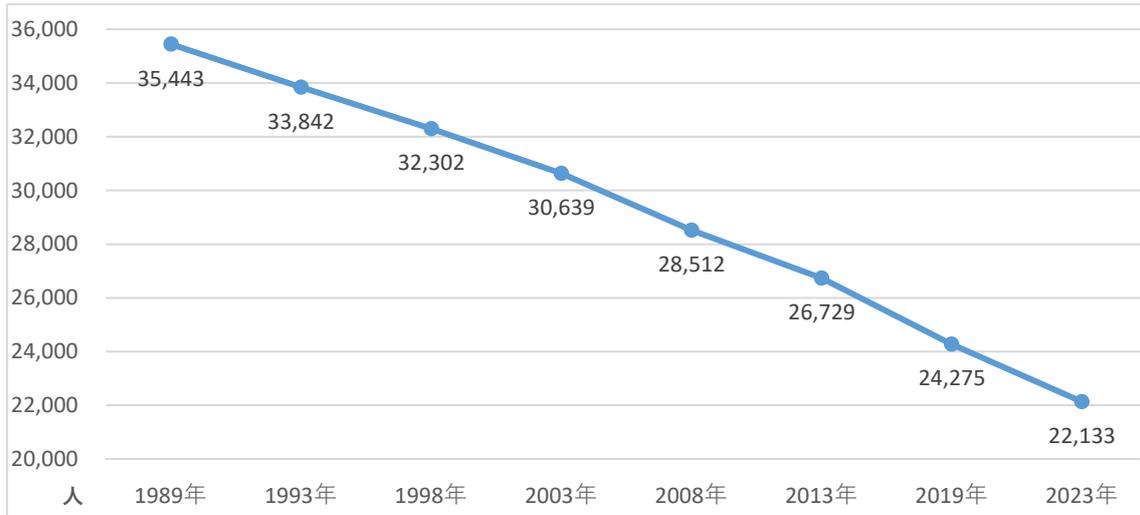


※2020年までは国勢調査に基づく。以降は、社人研推計による。

① 社会増(減)：転入者数が転出者数を上回る(下回る)こと。

② 自然増(減)：出生児数が死亡者数を上回る(下回る)こと。

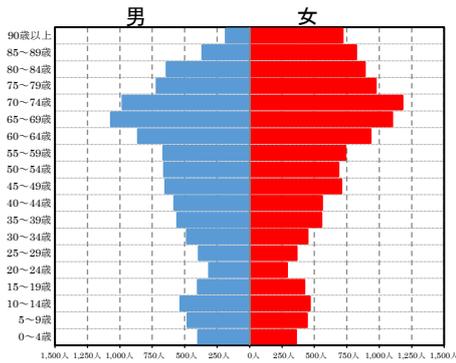
◆水俣市の人口の推移(1989年～2023年)



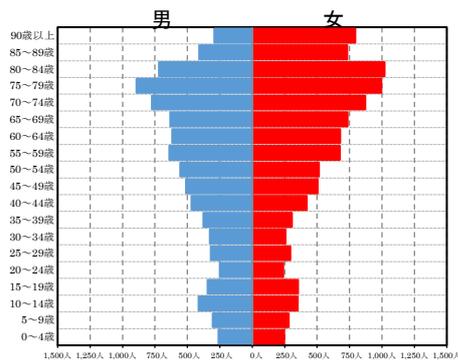
※資料:水俣市

◆水俣市の人口ピラミッド

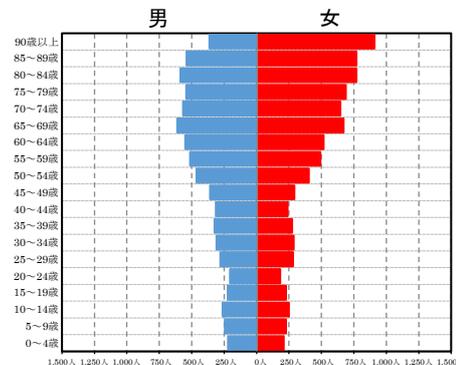
2020年 人口 23,557人



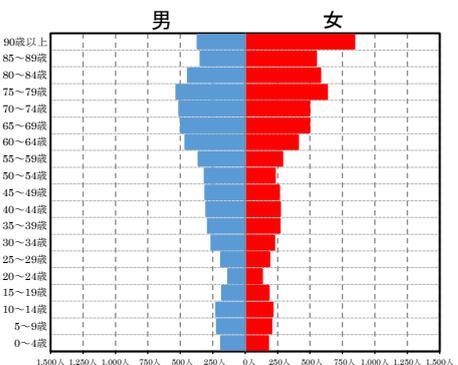
2030年 人口 19,372人



2040年 人口 15,812人



2050年 人口 12,700人



※2020年は国勢調査。以降は、社人研推計による。

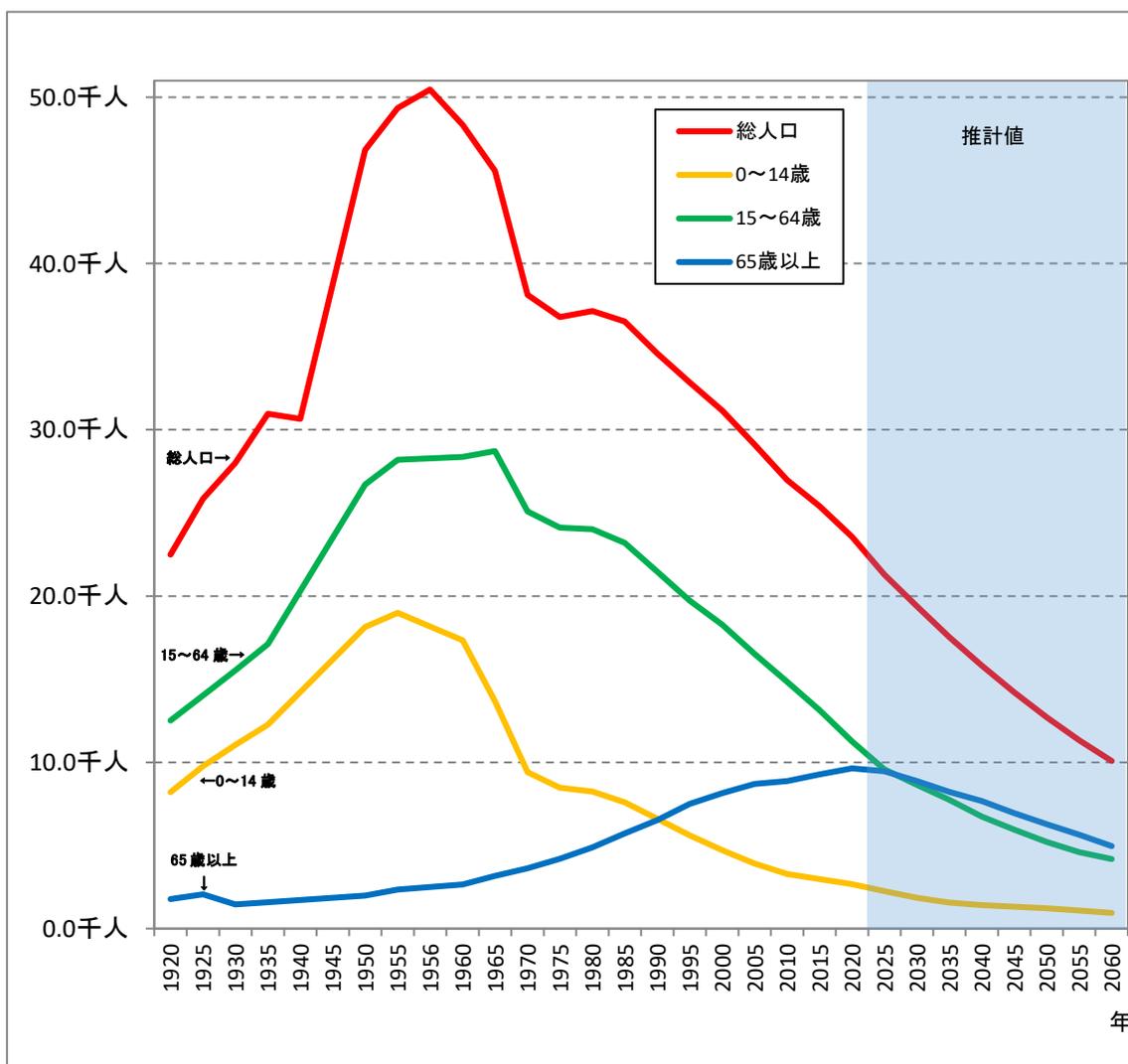
## (2) 年齢区分別人口の推移

2020年の国勢調査の結果を年齢3区分別に見ると、年少人口（0～14歳）は2,674人で総人口の11.4%、生産年齢人口（15～64歳）は11,248人で総人口の47.7%、老年人口（65歳以上）は9,635人で総人口の40.9%となっている。

これを、10年前2010年の国勢調査の結果と比較してみると、年少人口は598人の減少で総人口に占める割合が0.7%ポイント減少、生産年齢人口は3,586人の減少で総人口に占める割合が7.3%ポイントの減少となっているのに対して、老年人口は逆に763人の増加で総人口に占める割合、すなわち高齢化率が8.0%ポイント上昇している。

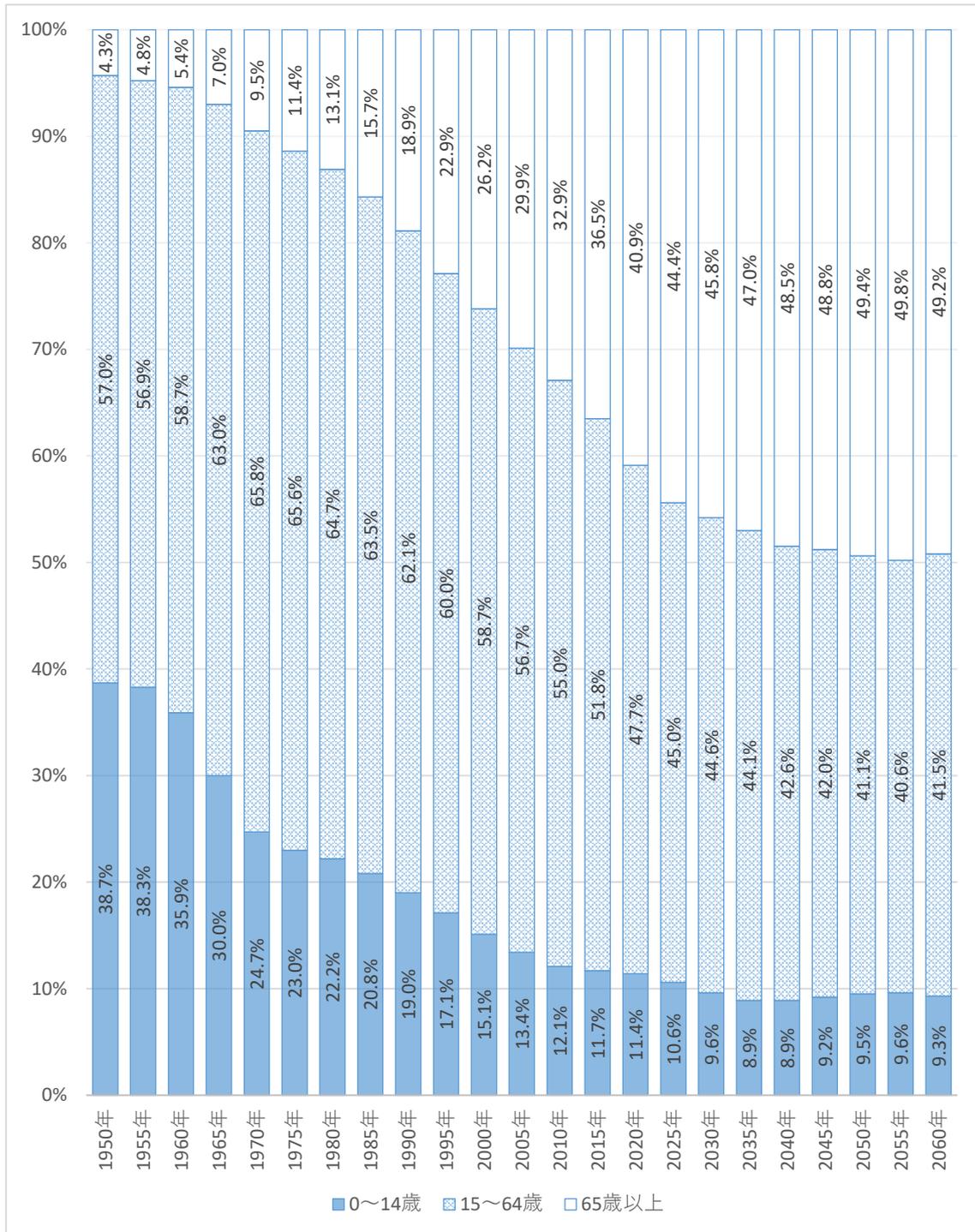
本市では、高齢化の進行が熊本県全体と比較しても30年以上早いペースで進んでおり、社人研の推計値によれば、2025年から2030年頃には、生産年齢人口と老年人口がほぼ同等程度の水準になると推測される。

### ◆総人口と年齢3区分別人口の推移



※2020年までは国勢調査に基づく。以降は、社人研推計による。

◆年齢3区分別 総人口に占める割合の推移



※2020年までは国勢調査に基づく。以降は、社人研推計による。

## 2 自然増減及び社会増減

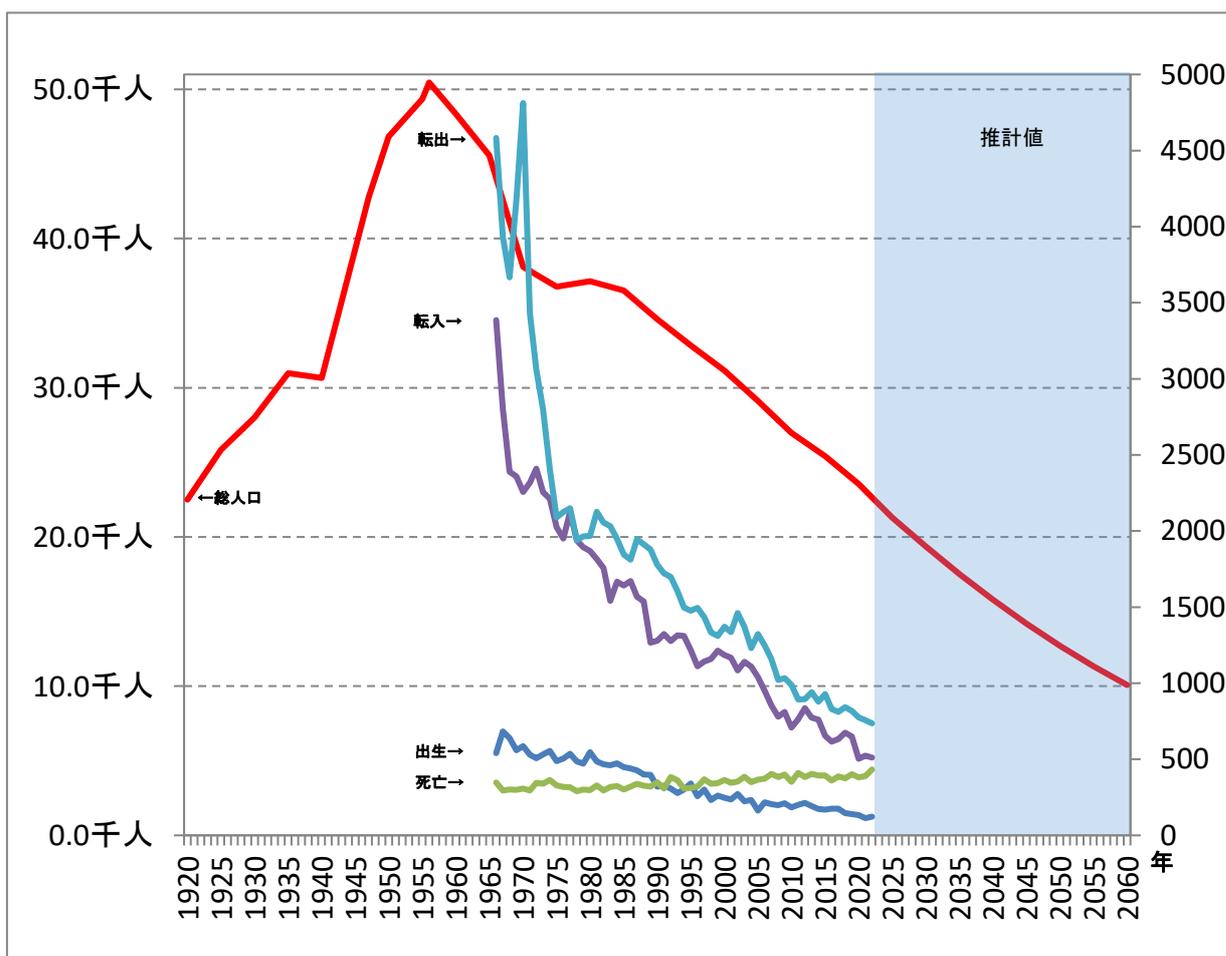
### (1) 人口の増減要因

本市では、1956年の人口のピークに至るまでの時期には、他に先駆けた近代的産業の発展によって、本市周辺には大規模な労働力の集積が起こり、社会増減、自然増減のいずれにおいても人口は増加した。

その後、高度成長の波の中で、全国的にも、地方から京阪神・北九州などへの大規模な労働力の流出が起こり、同じ時期に、国家的な産業構造の転換、水俣病問題の発生などのために、地域経済の停滞に見舞われた本市においては、1年間の転出数が総人口の1割にも達するような急激な人口流出に見舞われ、社会増減は減少に転じている。

また、戦後の第1次ベビーブームを頂点として、本市においても出生数の減少が続いており、近年では、晩婚化、高齢化の進展とともに死亡者数が増加して、1990年頃を境に、本市の人口は自然増減においても減少に転じている。

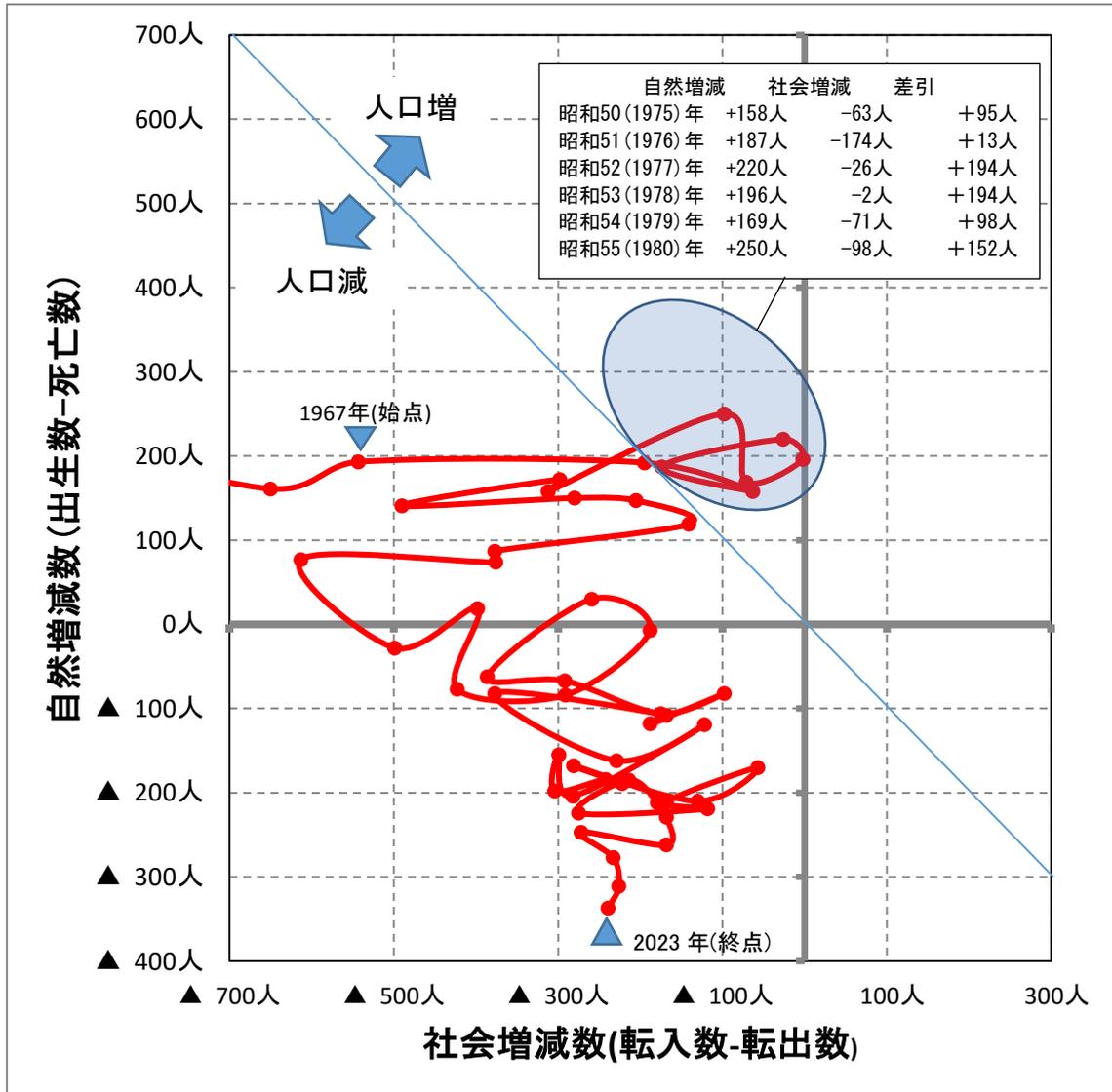
◆総人口と出生・死亡、転入・転出の推移



※2020年までは国勢調査に基づく。以降は、社人研推計による。

※資料：水俣市

◆自然増減と社会増減の影響



※資料:水俣市

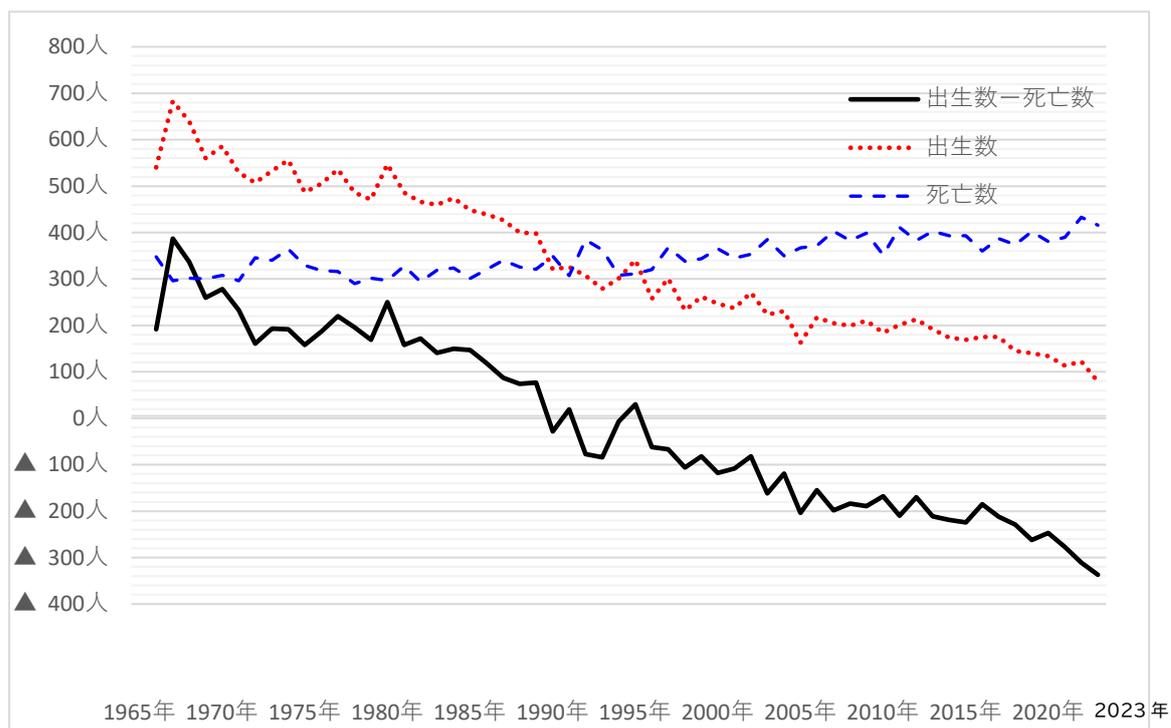
## (2) 自然増減の動向

### ① 出生数と死亡数

本市の出生数は、戦後の第1次ベビーブームの時期をピークとして減少し、1989年に初めて、死亡数が出生数を上回り、自然減となった。

その後も、出生数の減少は続き、自然減は拡大の傾向にあり、2022年には、初めて300人を超える自然減となっている。

### ◆ 出生数と死亡数の推移



※資料:水俣市

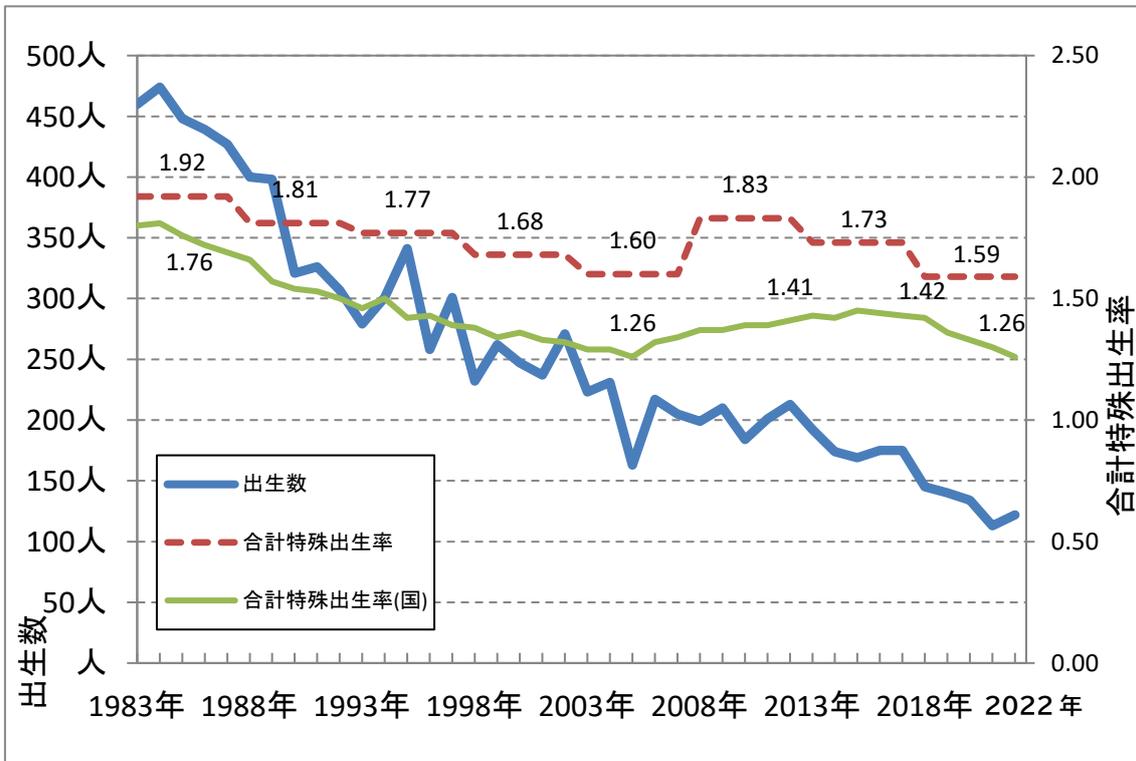
## ②合計特殊出生率③

本市の合計特殊出生率については、過去、国の平均を上回りつつも低下傾向が続いていたが、2008年から2012年までの値は、1.83と比較的高い水準まで回復し、県内45市町村中12番目、14市では3番目の高い水準となった。

しかしながら、前回、2013年から2017年は1.73、今回、最新となる2018年から2022年までの値も1.59と落ち込み、県内44市町村④中39番目、14市では12番目の水準となっている。

出生数に関しても、1980年頃から減少傾向が続き、近年では150人を割り込む状況となっている。

### ◆合計特殊出生率と出生数



※資料:人口動態統計(厚生労働省)

③ 15歳から49歳の女性はその年次の年齢別出生率を合計した数値  
その年次において、一人の女性が一生の間に生む子どもの数を理論的に示す指数  
④ 球磨村の2018年から2022年までの値が確認できないため44市町村での順位

### (3) 社会増減の動向

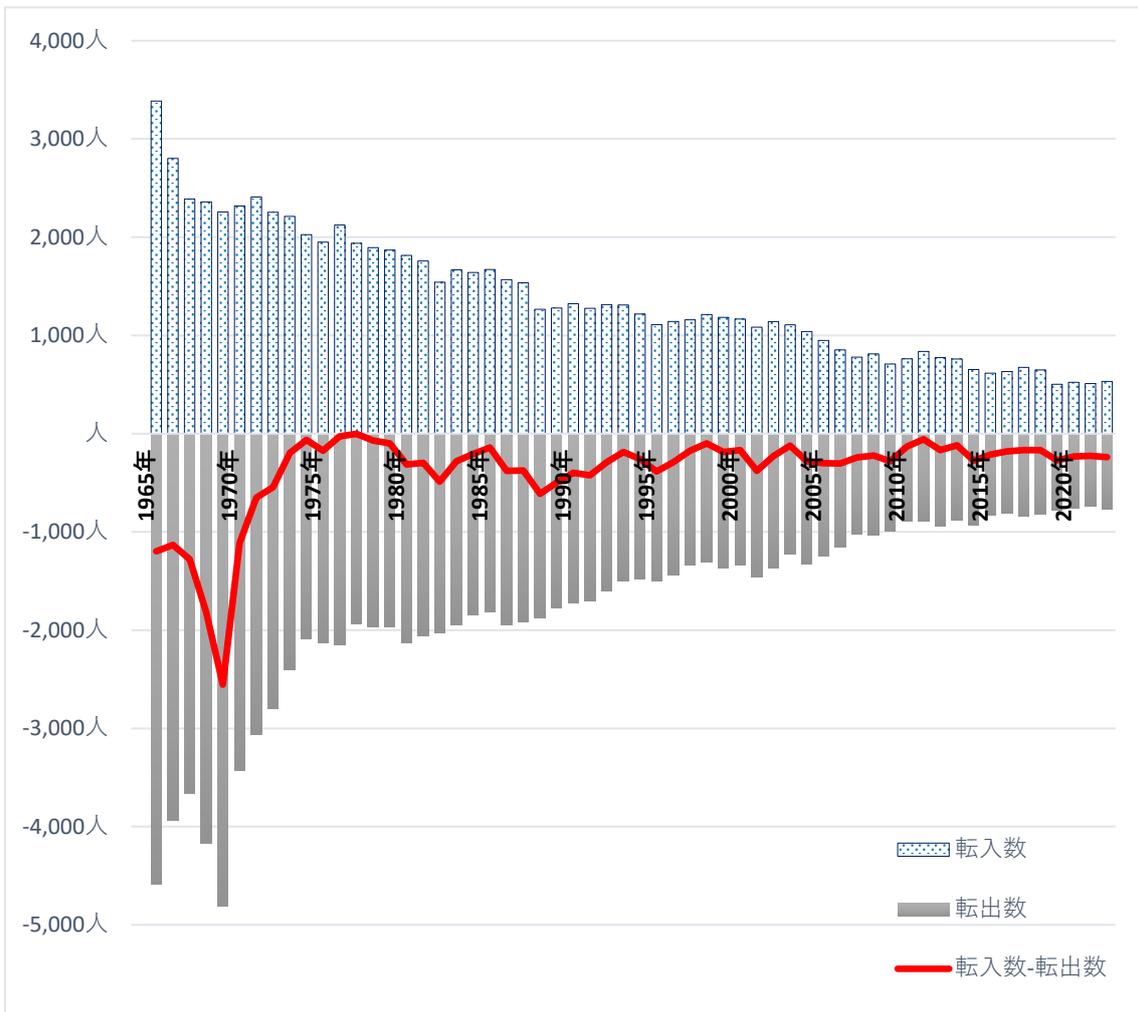
#### ① 転入数と転出数

1960年代、高度成長期においては、毎年の転出者数が4千人を超える水準で推移し、社会減だけでも毎年千人を超える状況が続いた。

そのため、第2次ベビーブームに向けた出生数の増加による自然増にもかかわらず、急速な人口の減少につながった。

その後も社会増減に関しては減少の状況が続いているが、その規模は年間200人程度の減少で推移している。

#### ◆ 転入数と転出数の推移



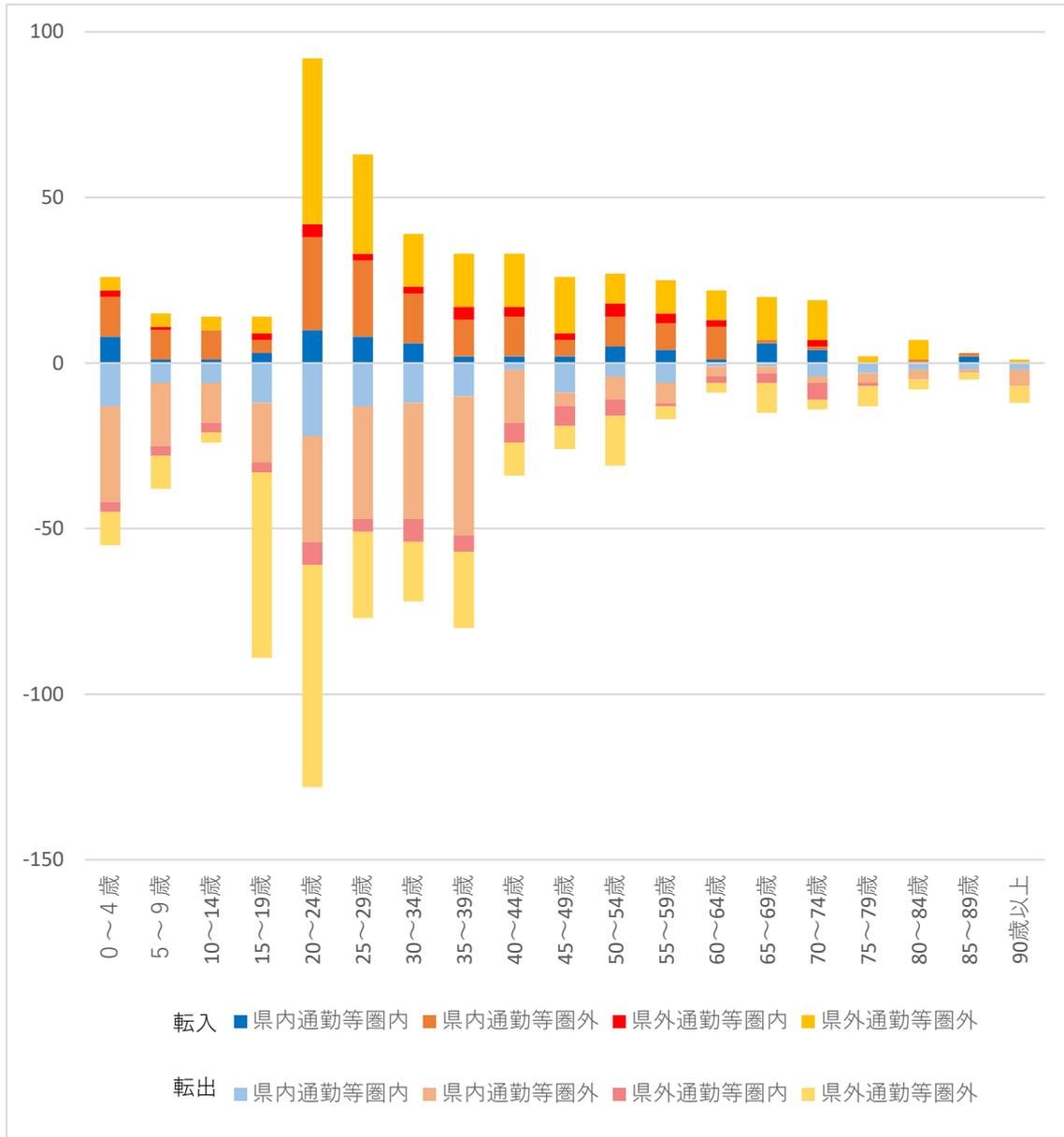
※資料:水俣市

## ②年齢階級別人口移動の状況

2023年における本市の年齢階級別人口移動の状況を見ると、「15歳～24歳」の階層の転出超過が極めて大きくなっている。

これは、進学・就職等のために市外へ転出する例が多いことを示すものと考えられる。

### ◆年齢階級別純移動数【2023年】



※資料:住民基本台帳人口移動報告

(注) 県内外通勤圏： 県内外の市町村のうち、その市町村に居住する通勤・通学者の総数のうち0.1%以上が水俣市へ通勤・通学しており、かつ水俣市からその市町村に同様に0.1%以上が通勤・通学している市町村を「通勤圏内」とする。

ただし、転入・転出が少数の市町村は除く。

(県内外通勤圏：県内は八代市、芦北町、津奈木町、県外は出水市)

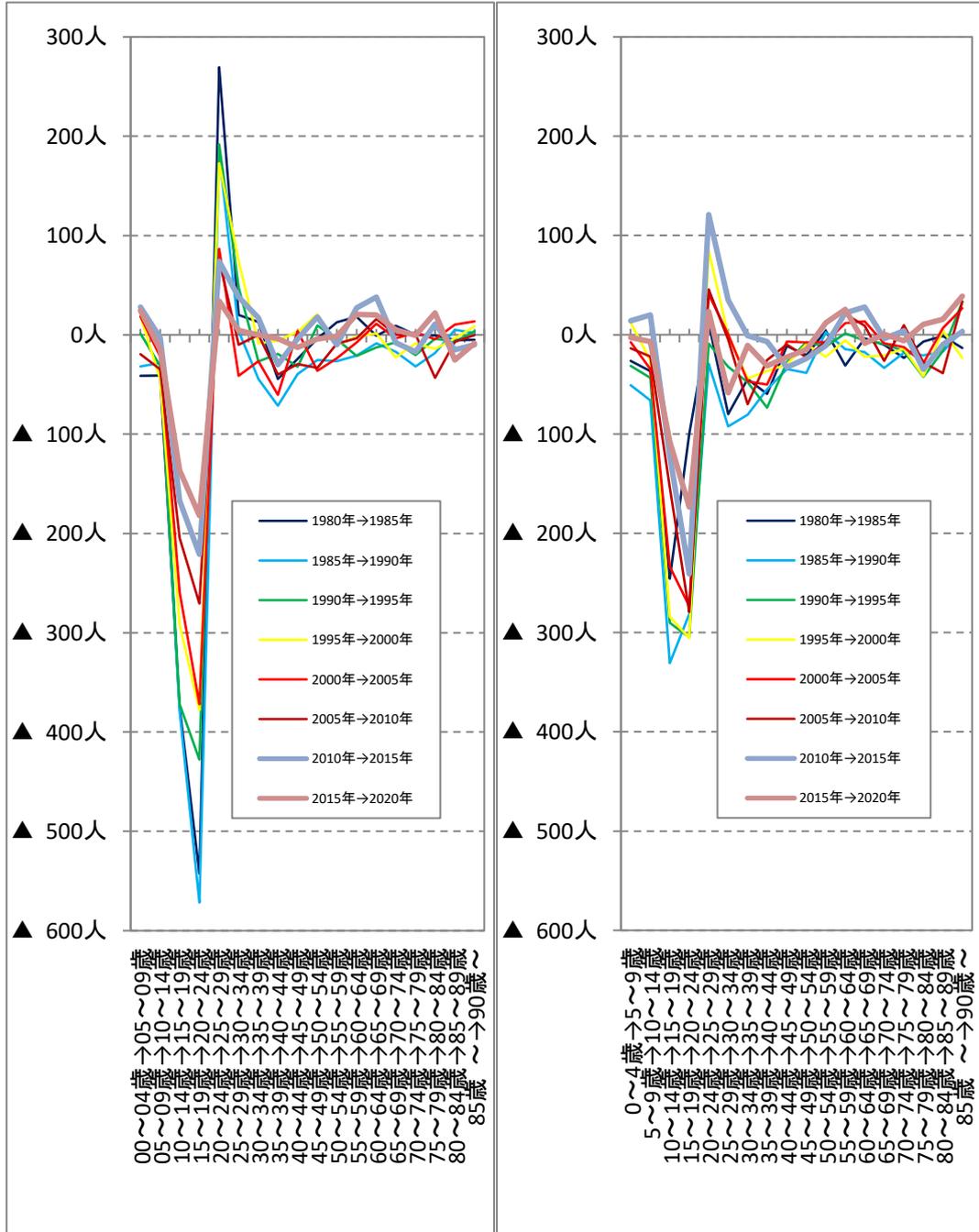
### ③年齢別・男女別人口移動の推移

年齢別・男女別の5年毎（1980年～2020年）人口移動状況の推移をみても、「15～24歳」において、従前から大きな転出超過であったことがわかる。

その後、「25歳～29歳」で一度、転入超過へ転換するものの、近年は超過幅が小さくなっている。

◆年齢別人口移動の推移【男】

◆年齢別人口移動の推移【女】

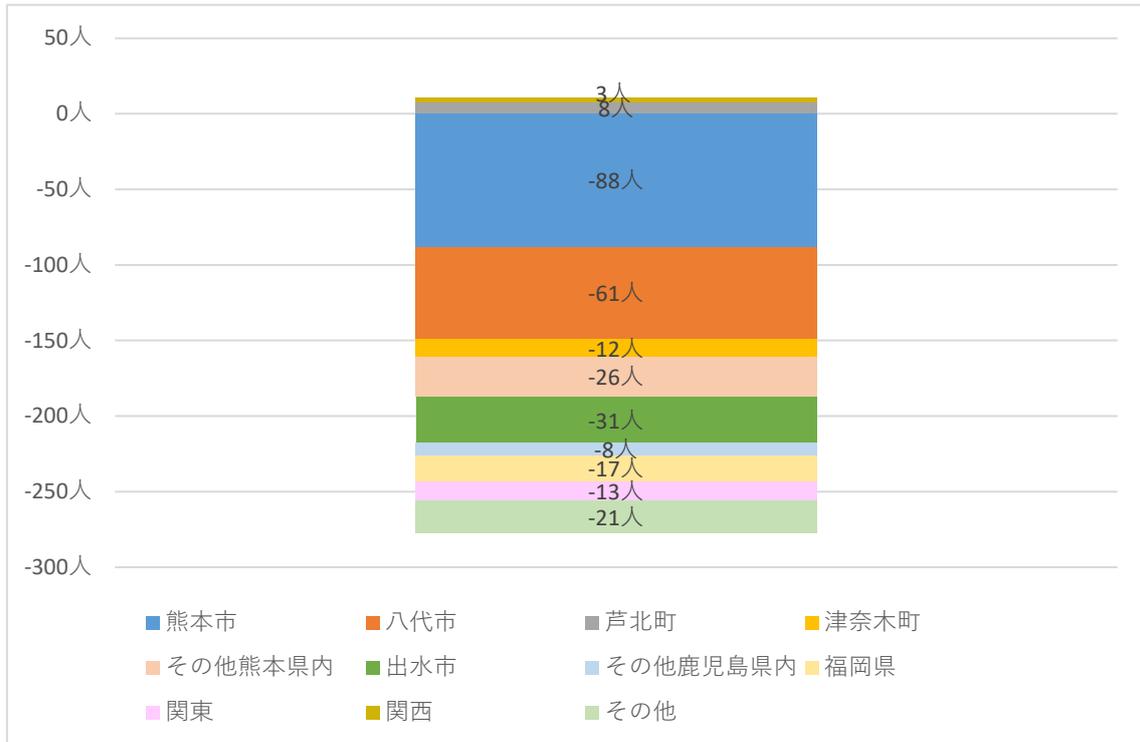


※資料：国勢調査

#### ④地域別人口移動の状況

2023年において、本市への転入又は転出超過の状況は次のとおりとなっており、転出先では、特に熊本市、八代市、出水市への転出が目立っている。

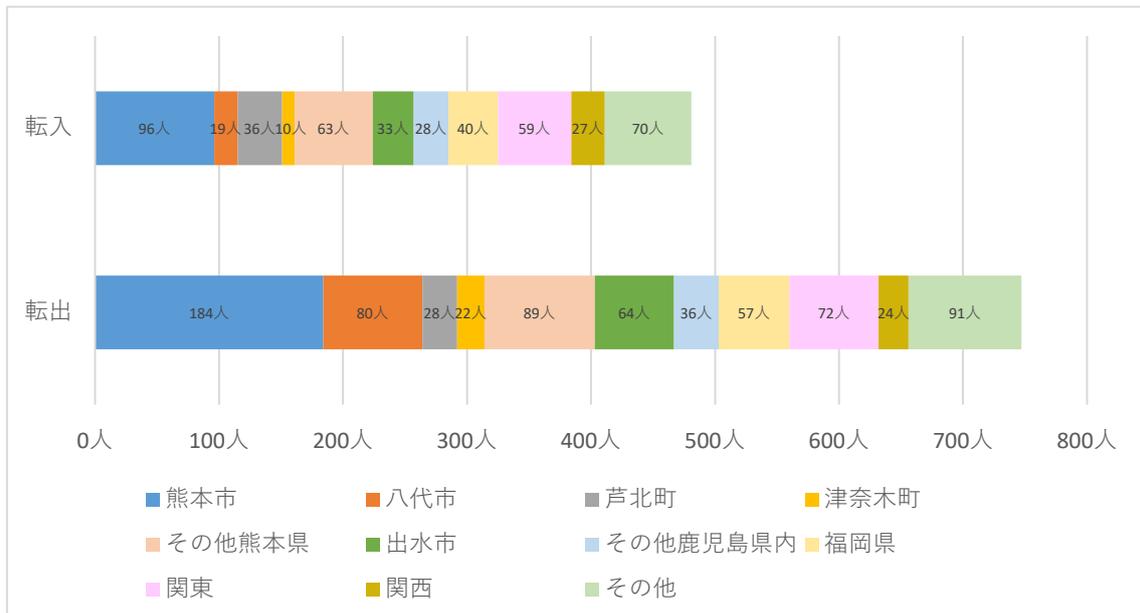
#### ◆転出超過(人口移動)の地域別の状況【2023年】



※資料:住民基本台帳人口移動報告

#### ◆転入・転出数及び転入先・転出先について【2023年】

【2023年】 転入者数：481人 転出者数：747人 差引 ▲266人



※資料:住民基本台帳人口移動報告

### 3 就労の状況

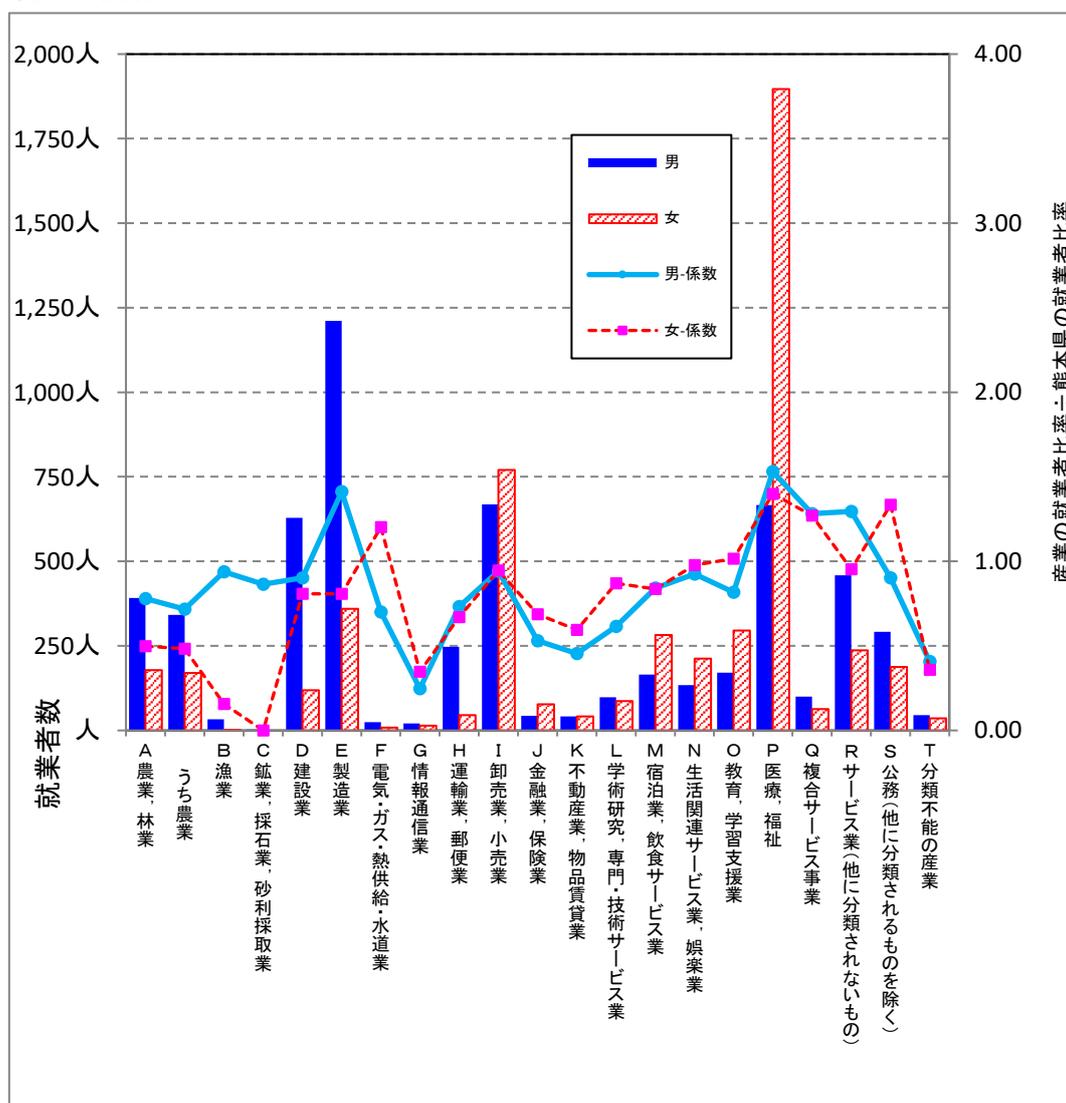
#### (1) 産業別就業者数

2020年の国勢調査の結果に基づき、本市の産業分類ごとの就業者数をみると、男性では、「製造業」が1,211人と最も多く、続いて「卸売業・小売業」が668人、「医療・福祉」が666人で続いている。

女性では、「医療・福祉」が1,897人と最も多く、続いて「卸売業・小売業」が770人、次に「製造業」が360人などとなっている。

また、熊本県の就業者比率と比較した特化係数でみると、「医療・福祉」が男女とも高い水準にあるほか、男性では「製造業」「サービス業」(他に分類されないもの)、女性では「公務」(他に分類されるものを除く)、「複合サービス事業」などが高い係数を示している。

#### ◆男女別就業人口



※資料:国勢調査

◆産業別・男女別就業者数【2020年国勢調査】

産業分類	男性		女性			
	就業者数	特化係数	就業者数	特化係数		
A 農業，林業		392人	0.78		178人	0.50
うち農業	⑥	342人	0.72		170人	0.48
B 漁業		33人	0.94		2人	0.16
C 鉱業，採石業，砂利採取業		3人	0.86		-	-
D 建設業	④	629人	0.90		119人	0.81
E 製造業	①	1,211人	1.41	③	360人	0.81
F 電気・ガス・熱供給・水道業		24人	0.70		8人	1.20
G 情報通信業		21人	0.25		14人	0.35
H 運輸業，郵便業	⑧	247人	0.73		45人	0.67
I 卸売業，小売業	②	668人	0.94	②	770人	0.95
J 金融業，保険業		43人	0.53		77人	0.69
K 不動産業，物品賃貸業		41人	0.45		41人	0.59
L 学術研究，専門・技術サービス業		98人	0.62		87人	0.87
M 宿泊業，飲食サービス業		165人	0.84	⑤	282人	0.84
N 生活関連サービス業，娯楽業		134人	0.93	⑦	212人	0.98
O 教育，学習支援業		171人	0.82	④	295人	1.02
P 医療，福祉	③	666人	1.53	①	1,897人	1.40
Q 複合サービス事業		100人	1.28		63人	1.27
R サービス業（他に分類されないもの）	⑤	459人	1.30	⑥	237人	0.95
S 公務（他に分類されるものを除く）	⑦	292人	0.90	⑧	188人	1.34
T 分類不能の産業		45人	0.41		36人	0.36
合計		5,442人			4,911人	

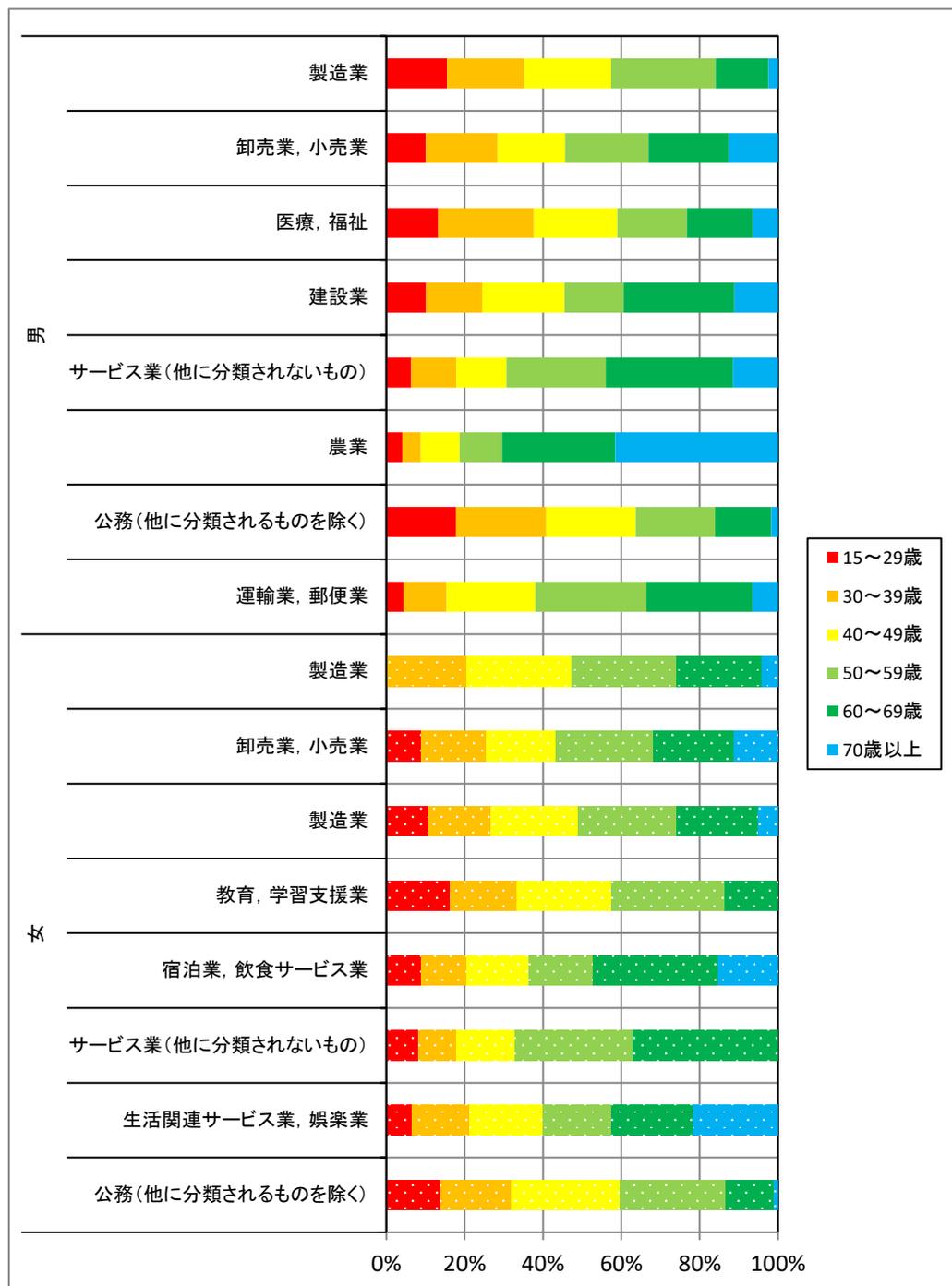
※資料：国勢調査

※特化係数：産業分類ごとの就業者数が全就業者数に占める割合を、熊本県全体におけるそれで除した係数（水俣市において、特に盛んな産業分野や、雇用創出力をみるための指標となる。）

## (2) 年齢階級別産業人口割合

2020年の国勢調査の結果に基づき、産業分類のうち、就業者の多い業種など8分類について、就業者の年齢構成を見ると以下のとおりとなる。

男性の「農業」については、就業者の多くが60歳以上という状況にあるなど、就業者の高齢化が目立つ。女性では、宿泊業、飲食サービス業において、過半近くが60歳以上となる状況となっており、他の業種についてもそれぞれ年齢構成に特色が見られるが、どの業種においても、社会増減等の状況からみても、今後、就業者の高齢化が進んでいくものと推測される。



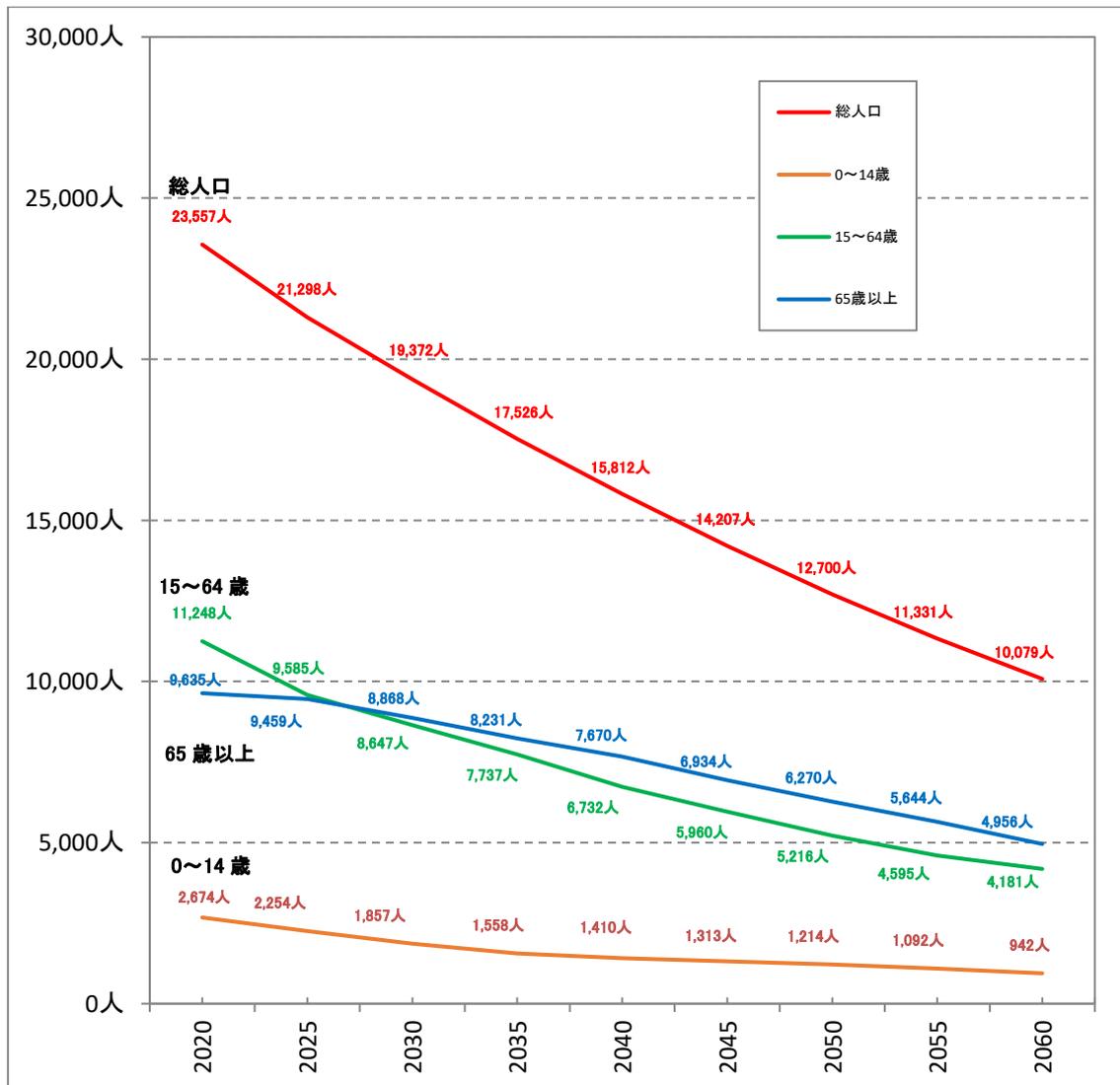
※資料:国勢調査

## 第3章 人口の将来展望

### 1 社人研推計

社人研がまとめた「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」の結果は以下のとおりである。

#### ◆将来人口推計



※2020年までは国勢調査に基づく。以降は、社人研推計による。

## 2 人口減少段階の把握

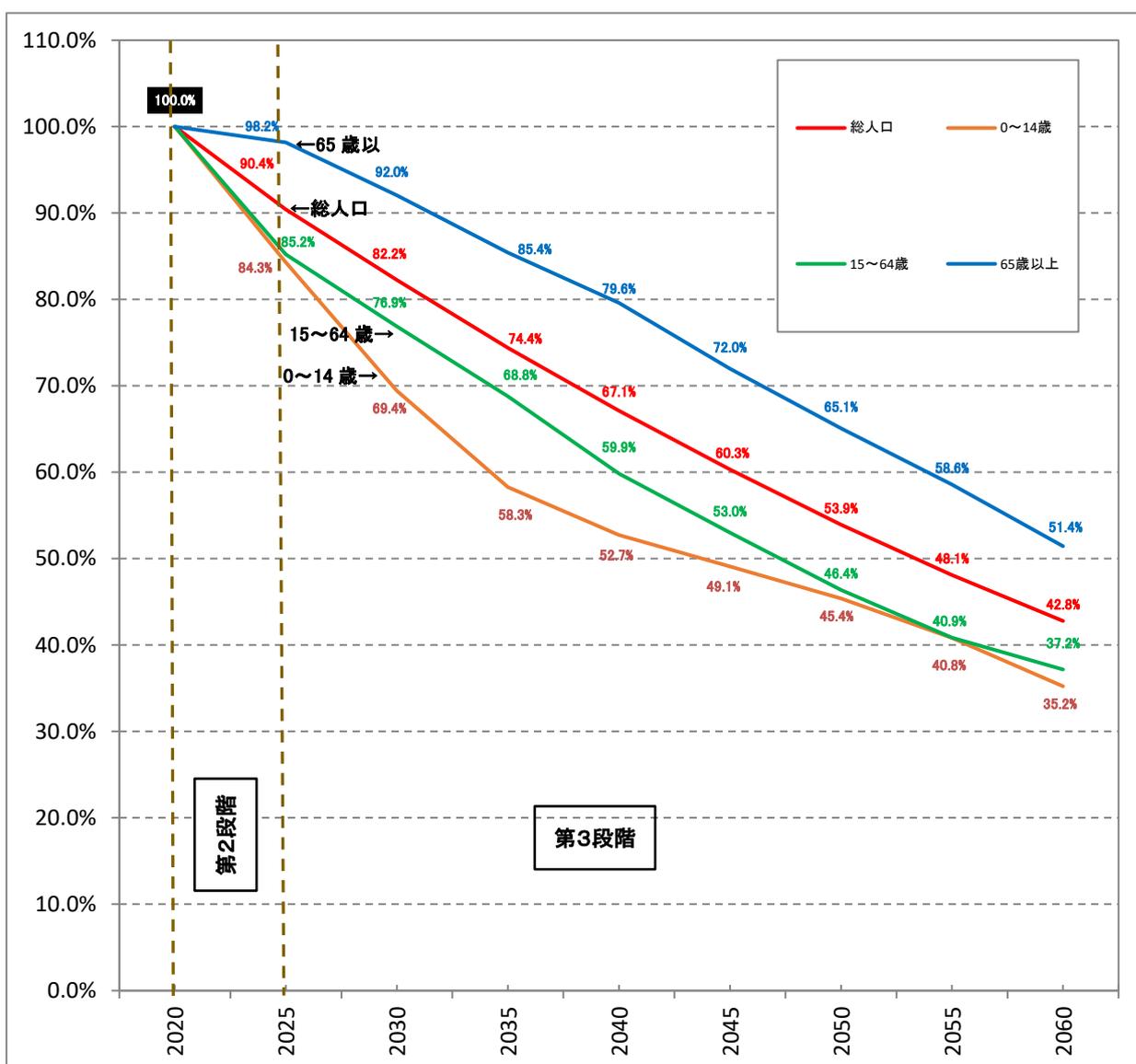
社人研推計では、2040年には、現在の人口から約33%、2060年には約57%が減少するという結果が出ている。

なお、人口減少段階は一般的に次の3つの段階を経て進行するとされている。

- 第1段階：老年人口の増加（年少・生産年齢人口の減少）
- 第2段階：老年人口の維持・微減（年少・生産年齢人口の減少）
- 第3段階：老年人口の減少（年少・生産年齢人口の減少）

社人研推計により、本市の年齢3区分別人口の推移をこの3段階に当てはめると、以下のとおり既に第2段階の高齢者人口の微減に転じ、2025年頃からは、高齢者人口の減少が加速するものと推測される。

### ◆将来の人口減少段階の把握



※資料:社人研推計

### 3 人口の減少が地域の将来に与える影響についての考察

#### (1) 産業への影響

人口の減少は、個人の消費活動の減少、すなわち地域産業の市場規模縮小につながる。

また、生産年齢人口の減少により、働き手の不足が危惧される中、雇用の場自体も無くなることにより、更なる人口流出への「負のスパイラル」となっていく。

#### (2) 市民生活・地域社会への影響

市場規模の縮小により、市民生活を支えるサービス業や安心・安全な暮らしを守るために欠かすことができない医療関係などの経営が困難となり、更なる人口流出のきっかけになる危険をはらんでいる。

さらに、地域の担い手が流出することにより、地域コミュニティの維持すらも困難となれば、地域の伝統の伝承などにとどまらず、地域そのものの崩壊にもつながりかねない。

#### (3) 行政運営への影響

人口減少、市場規模の縮小は税収の減少にもつながる問題である。

その結果、老朽化が進む公共施設や住民生活を支えるインフラの改修整備、高齢化による社会保障関連経費の増加等に対応するための財源確保に、影響を及ぼすこととなる。

## 第4章 水俣市が目指す方向性

### 1 目指すべき方向性と基本目標の設定

本市の「まち・ひと・しごと創生」の目指す方向性については、「しごと」起点、「ひと」起点、「まち」起点という多様なアプローチを柔軟に行い、更に効果的にデジタルの力と地域の特性を活かした施策を積極的に推進することで、まち・ひと・しごとの好循環を促し、「人々が安心していきいきと暮らし、働き、子どもを産み育て、真の豊かさを実感できる魅力的なあらゆる機会」の創出を目指し、令和7（2025）年度から令和10（2028）年度までの4年間の計画期間とする『第3期総合戦略』を策定するにあたり、次の4つの基本目標を設定する。

- ・地域に根差した産業を育み、水俣に仕事をつくる
- ・質の高い教育と地域資源を活かし、水俣へ人の流れをつくる
- ・若者・子育て世代の生活環境を整え、水俣で結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・安心して幸せを感じながらいきいきと暮らせる魅力的な水俣をつくる

### 2 まち・ひと・しごと創生実現に向けた仮定

#### (1) 事実認識

##### ①本市の人口減少の直接要因

■転入－転出（△200人／年）

※かつては△1,000人／年を超えたが、近年は△200人程度で推移している。

■出生－死亡（△300人／年）

※1989年に初めて自然減を記録し、高齢者人口の増加により年々拡大している。これまで△200人台で推移していたが、2022年に初めて、△300人を超えている。

##### ②社人研の人口推計

■2030年の推計人口 19,372人

■2040年の推計人口 15,812人

■2050年の推計人口 12,700人

#### (2) 将来展望のための仮定

##### ①パターン1（社人研推計準拠）

2060年人口は10,079人

##### ②シミュレーション1（パターン1＋移動均衡）

仮に、パターン1において、人口移動がゼロ（均衡）で推移すると仮定した場合、2060年人口は14,221人

##### ③シミュレーション2（パターン1＋出生率上昇）

仮に、パターン1において、合計特殊出生率が2040年までに人口置換水準程度（2.1）まで上昇すると仮定した場合、2060年人口は10,380人

##### ④シミュレーション3（シミュレーション2＋移動均衡）

シミュレーション2において、人口移動がゼロ（均衡）で推移すると仮定した場合、2060年人口は14,855人

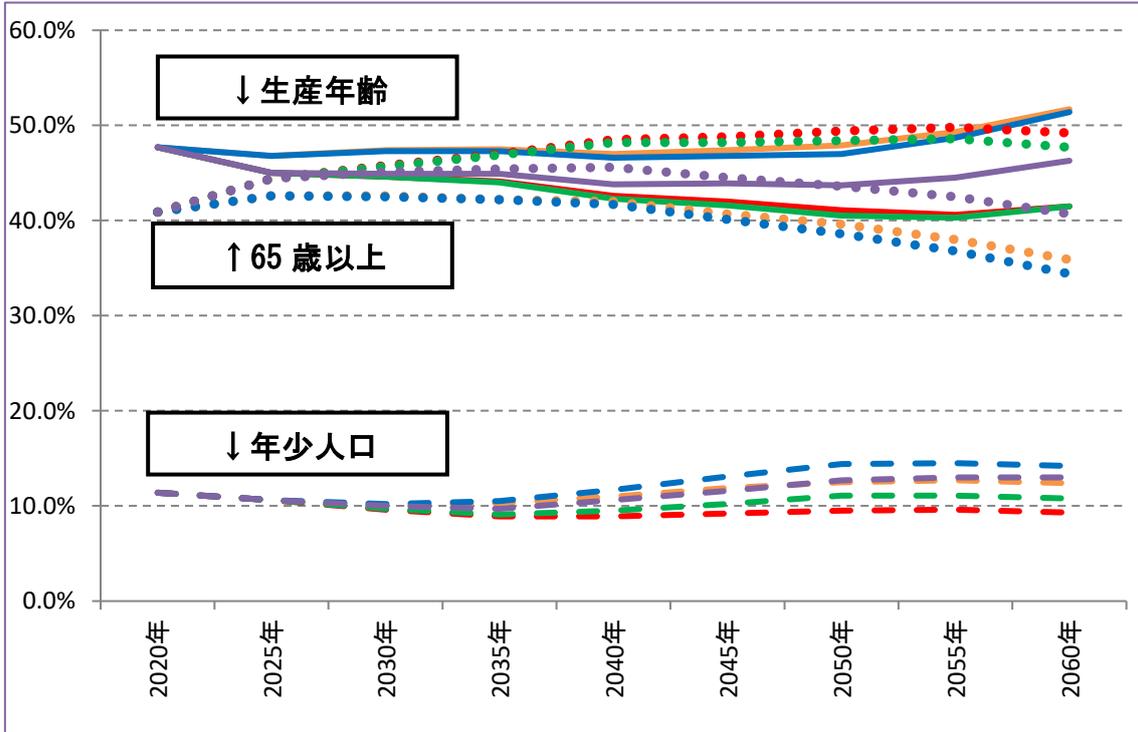
##### ⑤シミュレーション4（シミュレーション2＋若年男女中心に確保）

シミュレーション2において、男女全体で年間100名（少子化対策で重要な若年男女（5～44歳）においては各30名程度を条件）程度の転出抑制又は転入増加により確保した場合、2060年人口14,000人程度

◆年齢3区分人口比率の長期推計

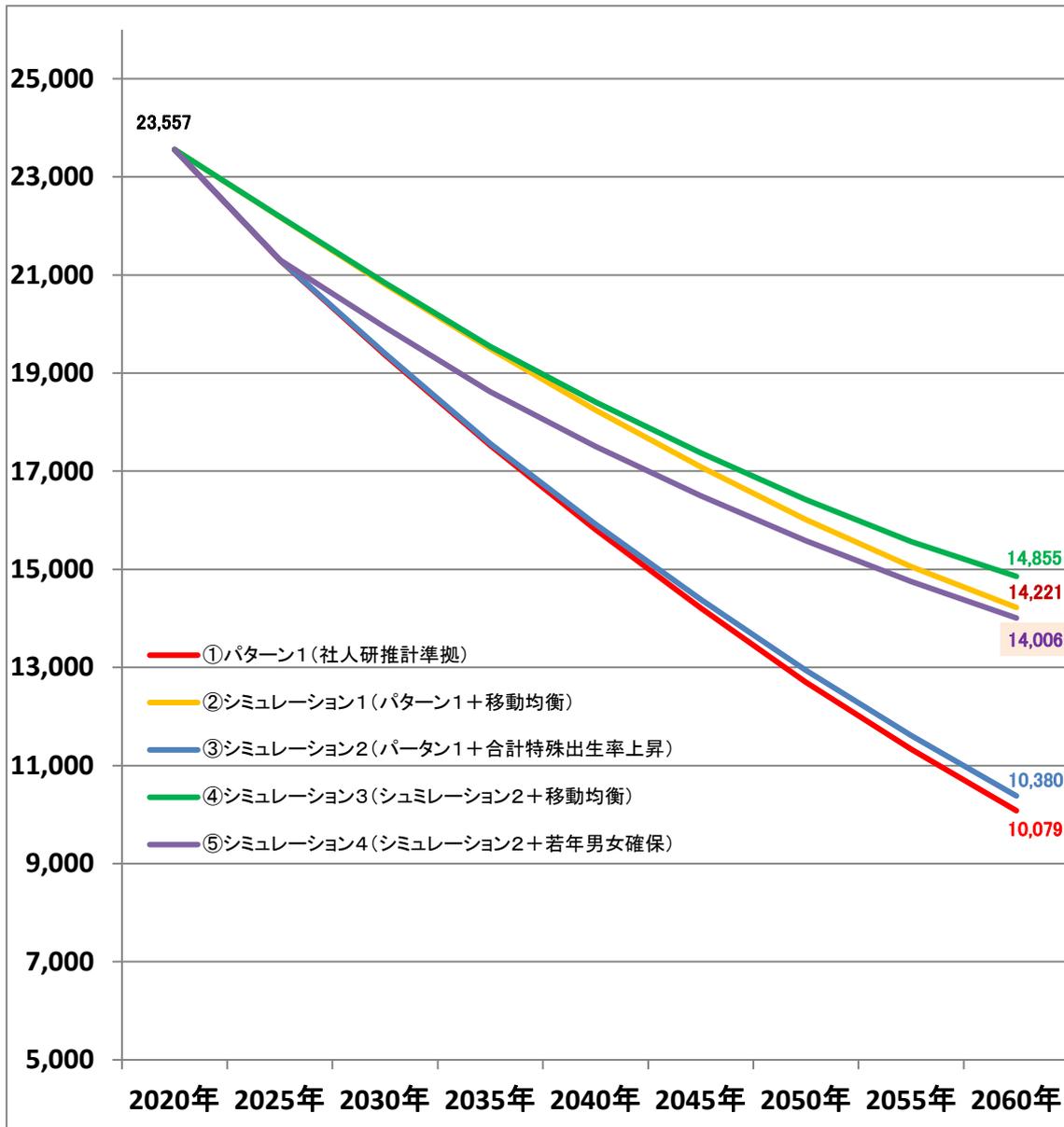
パターン1 …社人研推計準拠  
 シミュレーション1…パターン1+移動均衡  
 シミュレーション2…パターン1+出生率上昇  
 シミュレーション3…シミュレーション2+移動均衡  
 シミュレーション4…シミュレーション2+若年男女中心に確保

パターン1	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	23,557人	21,298人	19,372人	17,526人	15,812人	14,207人	12,700人	11,331人	10,079人
年少人口比率	11.4%	10.6%	9.6%	8.9%	8.9%	9.2%	9.5%	9.6%	9.3%
生産年齢人口比率	47.7%	45.0%	44.6%	44.1%	42.6%	42.0%	41.1%	40.6%	41.5%
65歳以上人口比率	40.9%	44.4%	45.8%	47.0%	48.5%	48.8%	49.4%	49.8%	49.2%
75歳以上人口比率	22.5%	26.7%	30.2%	32.2%	32.7%	32.7%	33.6%	33.8%	34.7%
シミュレーション1	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	23,557人	22,180人	20,807人	19,494人	18,244人	17,086人	16,014人	15,050人	14,221人
年少人口比率	11.4%	10.6%	10.0%	10.3%	11.0%	11.9%	12.5%	12.7%	12.4%
生産年齢人口比率	47.7%	46.8%	47.4%	47.5%	47.0%	47.4%	47.9%	49.3%	51.7%
65歳以上人口比率	40.9%	42.6%	42.6%	42.2%	42.0%	40.7%	39.6%	38.0%	35.9%
75歳以上人口比率	22.5%	25.6%	28.2%	29.2%	28.5%	27.4%	26.8%	25.7%	25.2%
シミュレーション2	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	23,557人	21,305人	19,399人	17,561人	15,923人	14,384人	12,939人	11,610人	10,380人
年少人口比率	11.4%	10.6%	9.7%	9.1%	9.5%	10.2%	11.1%	11.1%	10.8%
生産年齢人口比率	47.7%	45.0%	44.6%	44.0%	42.3%	41.6%	40.5%	40.3%	41.5%
65歳以上人口比率	40.9%	44.4%	45.7%	46.9%	48.2%	48.2%	48.4%	48.6%	47.7%
75歳以上人口比率	22.5%	26.7%	30.1%	32.2%	32.4%	32.3%	33.0%	33.0%	33.7%
シミュレーション3	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	23,557人	22,188人	20,842人	19,539人	18,408人	17,372人	16,420人	15,563人	14,855人
年少人口比率	11.4%	10.6%	10.2%	10.5%	11.7%	13.1%	14.4%	14.5%	14.2%
生産年齢人口比率	47.7%	46.8%	47.3%	47.3%	46.6%	46.8%	47.0%	48.7%	51.4%
65歳以上人口比率	40.9%	42.6%	42.5%	42.2%	41.7%	40.1%	38.6%	36.8%	34.4%
75歳以上人口比率	22.5%	25.6%	28.2%	29.1%	28.2%	26.9%	26.1%	24.8%	24.1%
シミュレーション4	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	23,557人	21,305人	19,933人	18,620人	17,508人	16,498人	15,582人	14,750人	14,006人
年少人口比率	11.4%	10.6%	10.0%	9.7%	10.6%	11.6%	12.7%	13.0%	13.0%
生産年齢人口比率	47.7%	45.0%	44.9%	44.9%	43.8%	43.9%	43.7%	44.5%	46.3%
65歳以上人口比率	40.9%	44.4%	45.1%	45.4%	45.6%	44.5%	43.6%	42.5%	40.7%
75歳以上人口比率	22.5%	26.7%	29.7%	31.0%	30.6%	29.7%	29.5%	28.6%	28.1%



	パターン1
	シミュレーション1
	シミュレーション2
	シミュレーション3
	シミュレーション4
	年少人口比率
	生産年齢人口比率
	65歳以上人口比率

## 水俣市の人口見通し 長期目標



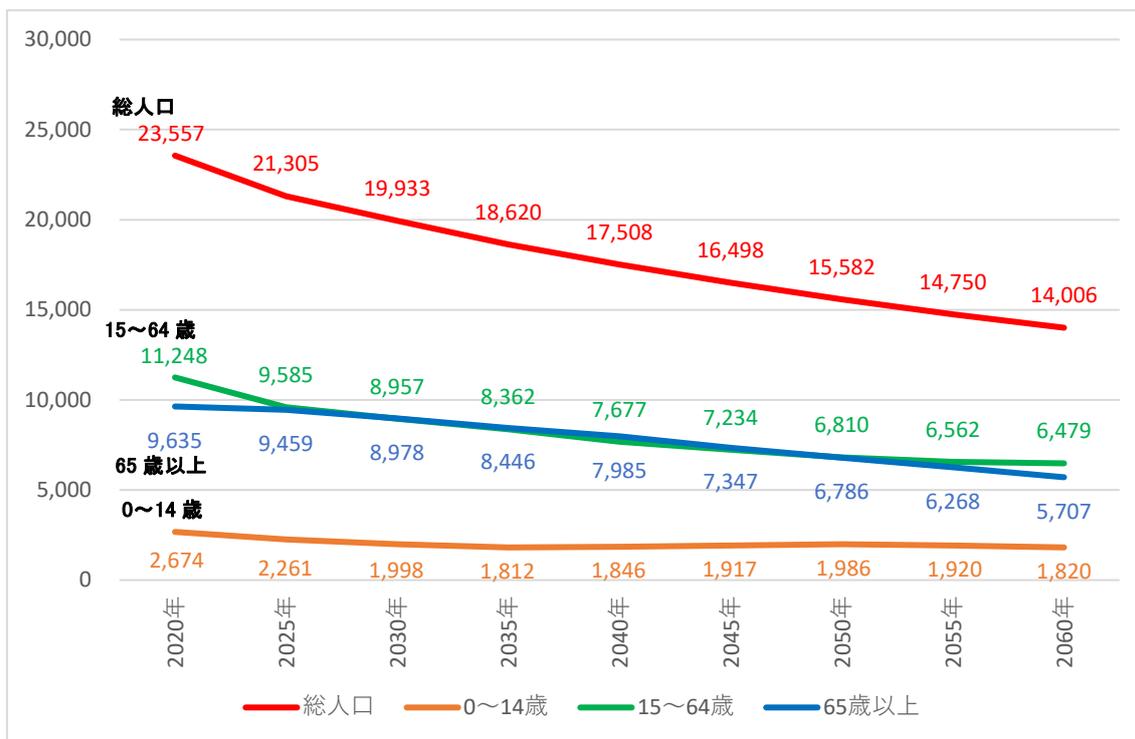
### 【水俣市の人口将来展望】

シミュレーション4を目標軸とし、4つの基本目標による施策の展開により、2060年において14,000人程度の人口を確保する。

**2060年の人口目標 14,000人程度**

【参考資料】シミュレーション4(シミュレーション2+若年男女中心に確保)

◆総人口と年齢3区分別人口の推計



◆年齢3区分別 総人口に占める割合の推計

